

# 科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

⑦

## ミッション設定

欧州連合 (EU) の

科学技術政策の柱に位置付けられるのが、

「フレームワークプログラム (FP)」と呼ばれる多年次の研究助成プログラムである。

FP は 1984 年に始まり、現在は 14 年から 7 年間総額 748 億円の「Horizon

2020 (H2020)」が実施されている。

H2020 では、基礎研究から市場に近い応用研究まで幅広く支援され、社会的課題の

解決を目的とした国際的な産学共同研究も数多く実施されている。

この H2020 の後

継となる 21 年からの 7 年間を対象とした「Horizon Europe」の制度

設計が今まさに進められつつある。H2020 の設計が今まさに進められつつある。H2020 の設計が今まさに進められつつある。

### Horizon Europe の構成

\*名称、予算は現在交渉中のもの

第一の柱 「卓越した科学」 (最先端研究の支援)	258億計
第二の柱 「グローバルチャレンジ ・欧州の産業競争力」 (社会的課題の解決)	527億計
第三の柱 「イノベータータイプ・ヨーロッパ」 (市場創出の支援)	135億計
その他の取組「参加拡大 と欧州研究圏強化」	21億計
合計	941億計

# EU 数年かけて制度設計



科学技術振興機構 (JST) 研究開発戦略センター 海外動向ユニットフェロー  
山村 将博  
東京工業大学大学院社会理工学研究科修了。JST 入構後、国際事業担当、産学連携事業担当を経て、NPO 法人 STS フォーラムにて国際会議運営業務を経験。18 年 11 月より現職。主に英国と EU を担当。

シオン志向型研究」を

導入することである。

「プラスチックのない海洋」といったミッションを設定し、その実

現に資する研究開発を支援する。また第三の柱で、基礎研究の成果

から破壊的イノベーション創出を目指す研究

開発を支援する「欧州イノベーション会議 (EIC)」の設立も

検討されている。HE の制度設計では

プログラムの検討過程に政策決定者・科学者

以外の多様なステークホルダーも関与し、開

始数年前から策定作業が始まる。例えば、一

般市民も身近に感じられるミッションとすべ

く、18 年 2-4 月に一般から意見を募集し

た。また、19 年の 9 月下旬には一般向けの H

E の広報イベントが予定されている。

おり、その実施状況も

踏まえた設計が進められる。FP では複数年

単位でプログラムが作られており、柔軟な運

用が可能となる。

わが国でも例年新しいプログラムが実施さ

れるが、制度設計では

まだまだ議論を尽くす

余地があるように見受けられる。EU のやり

方が全て正しいとは言

われないが、わが国にお

いても、単年度予算に

縛られない柔軟な運用

の下、多様なステークホルダーとの対話やパイ

ロットプログラムによる試行錯誤を重視したプログラムの設計を

検討してもよいのではないだろうか。

(金曜日に掲載)

## 柔軟な運用可能

加えて HE では、試行錯誤を通じた制度改善を行う。前述の EIC は 18 年から H2020 の下でパイロットプログラムが実施されて